

ざ・ちゅうおう ぷれす

2020年11月号 第99号

発行：世田谷区立中央図書館
 世田谷区弦巻3-16-8
 TEL 3429-1811
 FAX 3429-7436

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>



「ざ・ちゅうおう ぷれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。

コロナに負けない!! 中央図書館は動き続けています。

緊急事態宣言に伴う臨時休館後、感染症対策を講じながら各種サービスを再開し、徐々にイベントも開催できるようになりました。今号では、新しい生活様式の中での、中央図書館の取り組みをご紹介します。



入船亭扇治さん

読書の秋の講演会
「落語と読書」



おはなし会



特集!!長谷川町子
生誕100周年!!



三浦しをんさん



飯間浩明さん

文字・活字文化の日記念講演会

中央図書館カレンダー

11月							12月							1月							2月												
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土						
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5							1	2							1	2	3	4	5	6
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13						
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20						
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27						
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28												
													31																				

開館時間

火～日 10:00～19:00
 月・祝・休日 10:00～17:00

■ は、中央図書館休館日です。
 ■ は、17時に閉館です。

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

～長谷川町子生誕100周年特集～

サザエさんと長谷川町子美術館・記念館

今年は長谷川町子生誕100周年。世田谷区桜新町に長年お住まいだった長谷川町子ゆかりの長谷川町子美術館、新規オープンした長谷川町子記念館を特集します。

— 長谷川町子の生い立ち —

長谷川町子は佐賀県で生まれ、小学校入学前に福岡に転居しました。中学生の頃、父親が亡くなり生活が苦しくなった為、おじを頼って一家で上京することになります。東京の環境に馴染めず、次第に家にこもりがちになったそうです。

14歳の時、母親の後押しもあって以前から憧れの漫画家であった『のらくろ』の作者、田河水泡の内弟子になります。実家から離れ、時にはホームシックになりながらも漫画家として頭角を現していき、多くの新聞、雑誌に漫画を掲載していきました。



再現された作業机



その後、戦争の影響で一家は福岡に疎開し、西日本新聞社に入社して絵を描く仕事に就きました。終戦後に西日本新聞社を退社、当時創刊したばかりの夕刊フクニチに漫画連載の依頼を受け『サザエさん』の連載を開始します。連載開始とほぼ同時期に、「漫画を描くからには東京で華々しくやっていきたい」という思いから一家で再び上京し、世田谷の桜新町に新居を構えました。この時、二人の姉妹と一緒に「姉妹社」を立ち上げ、『サザエさん』を単行本として出版し、人気を博していくことになります。

— 意外と違う？原作とアニメ —

アニメのサザエさんではおなじみのカツオの友人の花沢さんやマスオの同僚の穴子さんといった脇役は実は原作には登場しません。

また、アニメではちゃび台を囲むおなじみのお茶の間の風景も、原作では長年の連載の中でちゃび台からダイニングテーブルに変化するなど時代に合わせて暮らしが変化しています。



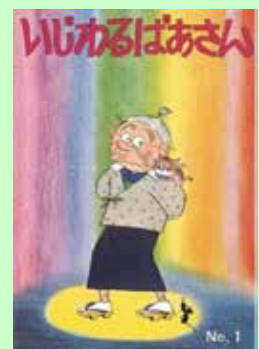
他にも原作は連載当時の磯野家全体のジオラマ戦後復興期の社会風刺を示す発言があったり、イクラちゃんが名前もない赤ん坊の「女の子」として登場しているなど、細かな違いが沢山あります。ぜひ原作とアニメを見比べて違いを楽しんでみてください。

— 長谷川町子の筆休め —

サザエさんの連載当時、大人にも子供にも親しみやすい作品にすることに町子は頭を悩ませていました。その影響もあってか、一年ほど連載を休止することになります。休載中、町子は陶芸教室に通いさまざまな陶芸作品を作ったり、刺繍やぬいぐるみの動物を作ったりして気分転換をしていたそうです。

また、『サザエさん』の連載再開後に『いじわるばあさん』の連載も開始しました。

この漫画は『サザエさん』や『エプロンおばさん』のようなヒューマニズムな作風とは全く異なる毒のある作品で、自身の持つ世界観のバランスを取るようにしたとされています。



2020年7月11日、生誕100周年を記念して「長谷川町子美術館」がリニューアルオープン。更に分館の「長谷川町子記念館」が新規オープンしました！桜新町駅から徒歩7分。住宅街に静かにたたずむ両館を訪ね、学芸員の方に案内していただきました。

リニューアル！長谷川町子美術館

長谷川町子美術館は、主に町子と姉の毬子が集めた絵画や工芸品などが展示されています。この美術館は町子が自身のコレクションを公開する為に建てられたものであり、折り紙をモチーフにした内装のデザインや、レンガの外壁、展示室に光が差し込むような天井のスリットなど、随所に町子のこだわりが見られます。収蔵されている作品は750点以上にのぼり、年数回に分けて行われる収蔵コレクションにて鑑賞することができます。



レンガ造りの美術館



1階展示室



2階展示室



アニメの部屋



磯野家のお宅紹介

新規オープン！長谷川町子記念館

美術館を出て道路を渡るとすぐに長谷川町子記念館です。常設展示室にはタッチパネルを使って町子の漫画、ぬりえを楽しめるコーナーや、町子本人の写真、サザエさんの原画、趣味で制作した陶芸作品などがあります。また、取材当時の企画展「長谷川町子の漫画創作秘話」では町子の漫画作品がどのように作られたのか、作品に込められた心情、苦悩を織り交ぜながら紹介されています。それぞれの展示からは、穏やかで落ち着いた雰囲気の中に昭和の明るいポップな風情が感じられました。入口脇には、ミュージアムグッズが販売されている購買部があり、町子が好きだったパイアを使ったパイアサイダーなど一風変わったドリンクメニューが用意されている喫茶部もあります。



正面入口



1階常設展示室では磯野家のみんながお出迎え



磯野家のお茶の間を再現



町子の生涯を振り返る展示の数々



購買部(ショップ)と喫茶部(カフェ)

※文中の写真はすべて©(財)長谷川町子美術館

参考にした資料

- | | | |
|---------------|---------|-------|
| ○長谷川町子思い出記念館 | 長谷川町子著 | 朝日新聞社 |
| ○サザエさんと長谷川町子 | 工藤美代子著 | 幻冬舎 |
| ○サザエさんの東京物語 | 長谷川洋子著 | 朝日出版社 |
| ○サザエさんキーワード事典 | 志田英泉子編著 | 春秋社 |





辞書編さん者の飯間浩明さんと作家の三浦しをんさんにご登壇いただきました。

第1部「今の日本語はどうなってる？～身の回りのことば観察法」講師：飯間浩明さん

まず、国語辞典の作り方についてのお話です。新しく辞書に載せることばの収集を用例採集と言い、飯間さんは街に出て用例採集するそうです。例えば、“クロック” マダムというパンが売っている一方で、“クローク” ムッシュも売っています。“クローク”と“クロック”どちら

街を歩いてたくさんのことばを見つけます！

が多いのか、他の例を探してみると、“クロック”の方が多数派らしいと判明！また、最近では“旬”のついたことばが増えていて（旬菜・旬味・旬房など）、“旬菜”は使用例が多く実際に辞書に採用されたと教えていただきました。

続いて、池井戸潤著『オしたちバブル入行組』（文藝春秋）からは「期中」という銀行用語を、有川浩（現：有川ひろ）著『阪急電車』（幻冬舎）から「お幼稚」ということばを用例採集。銀行用語や経済用語などは、小説にある言葉の説明がわかりやすいので、参考にすることもあるそうです！飯間さんの調べによると「お幼稚」という呼び方は、特に高知県や静岡県で多く使われているとか。他にもたくさんの楽しいことばの収集に余念のない飯間さんでした。

第2部 飯間浩明さん・三浦しをんさんのクロストーク（対談）

三浦しをんさんの『舟を編む』（光文社）執筆の際の構想メモをもとに、辞書やことばについてたくさん語っていただきました。作中、“愛”の語釈について男女間のものとは限らないとの描写があります。辞書の内容も時代によって変わっていき、実際、飯間さんも『舟を編む』をきっかけに“愛”の語釈から男女という表現を無くしたそうです。



続いて、飯間さんが三浦さんの最新作『愛なき世界』

（中央公論新社）の用例採集を紹介されました。主人公は **アクリル板越しにことばのキャッチボール** 植物の研究をしているので、多くの理系用語を採集できたそうです。また、作中で使用されるオノマトペにも面白いものがたくさんあったそうです。三浦さんのことばの使い方について、飯間さんがあまりにも多くのことに気が付くので、思わず三浦さんが飯間さんのことを「ことばストーカー」と呼ぶ場面もあり、会場の笑いを誘いました。

最後の話題はことばについて日頃気になることでした。人によってことばの選び方が違うことが話題になり、例えば、“せいぜい”はご年配の方は“精一杯”の意味でポジティブに使いますが、若者の間ではネガティブな意味になってしまうことをお話しされました。飯間さんによれば、人を評価することばは圧倒的にマイナスなものが多いのだそうです。これから先、人をほめるためのことばを増やしていけるといいですねという話題で締めくくられました。

ことばについてたくさんの興味深いお話、楽しいお話で笑いの絶えない、大変盛り上がった講演会となりました。参加された方からは、「ことばを大切にしたい」「ことばについて意識するきっかけとなった」「辞書編さんの裏話を聞けて楽しかった」などのご感想をいただきました。（参加者約150名）



第11回 読書の秋の講演会「落語と読書」

= コロナ禍のなか、60人が落語を満喫 =

9月21日(月・祝)開催

コロナウイルスの影響で、春以降、図書館の行事が相次いで中止されておりましたが、ようやく読書の秋の講演会を教育センター「ぎんが」で開催できました。

落語界で唯一、図書館司書の資格を持つ、入船亭扇治師匠を迎えての講演も今回で11回目、感染症対策のため入場者を例年の半分に抑え、高座の前にはアクリル板を設置する等、感染予防策を徹底しての開演となりました。

演目は、コロナ自粛が続くなか、家族同士が本の貸し借りを始める様子をコミカルに描いた新作落語「おうち図書館」を皮切りに、古典の名作「道具屋」、中入りを挟んで同じく古典落語の「ちりとてちん」の3話をご披露いただき、大いに会場を沸かせていました。今回は祝日開催で年少者の参加も多く、師匠の軽妙な語りにも子どもたちの大きな笑い声が響いていました。

落語の後のトークでは、小松左京の「復活の日」、広瀬正の「ツイス」、カミュの「ペスト」の3作品から、非常事態の中で人はどう行動するのかについてお話していただきました。

「こういう時期だからこそ“笑い”が必要」、「久しぶりに子どもの元気な笑い声を聞きました」など、お帰りの際に明るい顔で感想を言ってくださる参加者の声が印象的でした。



アクリル板を前に置いて



本の「おたのしみ袋」大人気でした！(7月31日・8月1日)

夏休み期間に合わせて、子ども向け「おたのしみ袋」の貸出を行いました。紙袋にはテーマを書いたラベルが貼ってあり、中にはテーマにちなんだ本が3冊入っています。図書館の職員と子ども読書リーダー(子ども司書)が本を選びました。テーマは「たのしいおまつり」「おさるさんといっしょ」「わたしの大事なお人形」など、様々なものをご用意。どんな本が入っているかは、袋を開けてからのおたのしみです。

全部で100袋(絵本50袋、小学校低学年用30袋、中学年用20袋)作成しましたが、2日間ですべて貸し出されました。「ふくろをあけたとき おもしろそうな本がたくさん入っていてうれしかったです」「自分では選んでいなかった作家さんに出会えました」等、多くの感想をいただきました。

中央図書館では初の試みでしたが、大好評でうれしいです。また12月に予定していますので、お楽しみに！



大人気でくま館長もにっこり



ど・れ・に・し・よ・う・か・な？

安心して本を読むために ～コロナ禍の図書館の取り組み～

新型コロナウイルスの収束に目途が立たない中、日々の生活において不安に思うことが後を絶ちません。そんな状況ではありますが、少しでも皆様に安心して図書館をご利用いただけるよう、中央図書館では様々な対策を行っています。

★ソーシャルディスタンスの確保★



閲覧席間引きの様子。席数が少なくなりご不便をおかけしますが、なるべく短時間をご利用いただき、より多くの方が利用できるようご協力をお願いします。



子どもコーナーでは、小さなお子さんにソーシャルディスタンスを意識してもらえよう、表示を工夫しました。
机にマスキングテープを貼って、1つのスペースを1人で使ってもらおうようにお願いしています。

★飛沫感染防止のためのビニールシート★



その他にも!!



- ★カウンター周辺や資料検索機などを定期的に消毒しています。
- ★返却された資料は清拭するか、一定期間保管してから皆様に提供しています。
- ★職員の健康管理、マスク着用、手指の消毒を徹底しています。

利用者の皆様へ

～引き続きご協力をお願いします～

- ・体調不良の際は来館をお控えください。
- ・館内ではマスクの着用をお願いします。
- ・滞在時間は2時間以内、できるだけ少人数でお越しください。
- ・こまめに手指の消毒をお願いします。
(入館時、館内の資料や検索機などを使用する前後など)
- ・ソーシャルディスタンスの確保にご協力をお願いします。

緊急事態宣言に伴う臨時休館中に図書館員が手作りした人形。名付けて、「ソーさるディスタンス」マスクをして手を伸ばしたおさるさんたちが図書館の入口で皆様の来館をお待ちしています。



よ～く見ると、おさるさんたちは手をつないでいないんですよ☆





新着図書案内



『イズナくんは今日も、』
櫻いいよ著 酒井以イラスト
(PHP 研究所)

春日は中学1年生の女子。
ある日の放課後、春日が
忘れ物を取りに視聴覚室に行くと、20センチほどの茶色の生き物がいました。そして、叫び声とともに同じクラスの飯綱くんが変わったのです！



飯綱くんは、髪の毛は茶色で内側は白色、目があうと睨まれているみたいでだれも話しかけません。変身の理由をきくと、飯綱くんには特別な力があり“イタチもどき”の動物になったり透明になったり、縁（人と人や人と物の繋がり）が視えたりするらしいのです。

この不思議な能力で、春日がなくした大切な『栞』を見つけることができるでしょうか。さまざまな縁をたどることで、成長していく姿が描かれている青春物語です。

【請求記号 J赤さ】

『避難所に行かない 防災の教科書』
西野弘章著 (扶桑社)

台風による暴風・洪水、地震など、近年、大きな災害が頻発している日本では、防災への心がまえが欠かせません。必要な時は迷わず避難が鉄則ですが、被災状況によっては避難所ではなく自宅で乗り切る選択肢もあります。



本書では、昨年千葉の自宅で暴風被害と2週間にわたる停電に遭遇した著者が、その経験をもとに「逃げない防災」のために必要な準備を紹介しています。例えば、台風後に酷暑で大規模停電などライフラインが途絶した時のための発電機、ポータブル電源、車を使う電源や災害時に実はとても重要なトイレ問題について、具体的な提案が掲載されています。高齢者や幼児がいるご家庭には一度読んでいただきたい本です。

【請求記号 3693に】

『ザ・ヒストリー科学大百科』
トム・ジャクソン著 高橋昌一郎監訳
大光明宜孝訳 (ニュートンプレス)

本書には、石器時代にヒト科の動物が道具を作った技術から、人口知能や宇宙望遠鏡などの最新の科学技術の可能性まで、あらゆる時代の科学に関する出来事や発見が時系列に沿って紹介されています。



ニュートン、ダーウィンやアインシュタインなどの偉人たちが身の回りで起きる現象に疑問を抱き、客観的な説明ができるよう向き合ってきた歴史が写真やイラストを交えながらわかりやすく解説されています。

子どもの頃は、誰しも多かれ少なかれ科学的な好奇心を抱いていて、いろんなことに興味を持っていたように思います。秋の夜長にこの本をめくり、子どもの頃の自分を振り返るもよし、いつの間にか失ってしまった好奇心や探究心を満足させるもよし。

【請求記号 4020し】

『美しい日本語 荷風3
心の自由をまもる言葉』
永井荷風著 持田叙子編著 高柳克弘編著
(慶應義塾大学出版会)

本書は、永井荷風の生誕140年、没後60年を記念して編まれた詩・散文・俳句から成るアンソロジー全3巻のうちの一つです。



花や月、おやつのお時間を愛したという荷風は、その艶っぽい作品も多く知られていますが、「自分は専門俳人ではない」と前置きしてこのような句を残しています。

“象も耳立て、聞くかや秋の風”

“涼風を腹一ぱいの仁王かな”

今まで荷風の作品に触れる機会がなかった方も、詩・散文、俳句などにいろいろな顔を見せる荷風の自由で美しいことばを堪能してみてはいかがでしょうか。

【請求記号 9186な】

図書館からのお知らせ♪



今後の
イベント

「学びのプレゼン」講演会 「54字の物語」

講師：氏田雄介氏

★著書に『54字の物語』シリーズ（PHP 研究所）等

日時：令和3年1月23日（土）

午後2時～4時

※詳細は、「区のおしらせ せたがや」（12月15日号）をご覧ください。

※講演後に、参加者を対象に作品募集をします。作品は、中央図書館に展示する予定です。

図書館活用講座中級編

「図書館を活用して認知症予防」

講師：結城俊也氏（専門理学療法士・医療福祉学博士・介護支援専門員）

★著書に『認知症予防におすすめ図書館利用術』シリーズ（日外アソシエーツ）等

日時：令和3年3月7日（日）

午後2時～4時30分

※詳細は、「区のおしらせ せたがや」（2月1日号）をご覧ください。

子ども読書活動推進フォーラム 「いまこそ、昔ばなしを！（仮）」

講師：小澤俊夫氏（小澤昔ばなし研究所所長・「昔ばなし大学」主宰）

日時：令和3年1月30日（土）午後1時30分～3時30分

対象：中学生以上（区内在住）

※詳細は、「区のおしらせ せたがや」（1月1日号）をご覧ください。

**会場はいずれも教育センター（中央図書館）3階「ざんが」です。
今後の状況により、中止となる場合があります。**



図書館ホームページ「本で旅をしよう！」図書館員がオススメする本

緊急事態宣言を受け、外出も図書館の利用も制限されていた中、本で旅気分を味わってもらおうと、「本で旅をしよう！」の連載を開始しました。旅好き本好きの図書館員がユニークな旅をご紹介します。東京近郊から果ては宇宙まで、本はどこまでも連れて行ってくれます。気になる本はぜひ！ご予約ください。

世田谷 本 旅



検索！！

編
集
後
記

前回第98号でご紹介した古関裕而さんの特集記事について、読者の方から様々なお声が寄せられました。一番多かったのが、「古関氏が世田谷に長く住んでいらしたとは！」という驚きの反応ですが、中には生前の古関氏とのエピソードを教えてくださいました方も。

その方のご実家であるタバコ屋に、古関氏が毎週ぴったりのお金を用意してタバコを買いに来ていたとのこと。お釣りが出ないようという気配りが古関氏の人柄を物語っています。

今回取材した長谷川町子美術館は、長谷川町子氏が自分で収集した美術品などを「社会に還元したい」と考え、建てられたそうです。取材を通して、まともや思いやりの溢れるエピソードに出会うことができ、心温まる思いになりました。皆様もぜひお出かけになってみてはいかがでしょうか。